

# 福山市 上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）

2017年度～2026年度  
（平成29年度～令和8年度）

2017年（平成29年）2月

2022年（令和4年）3月 改定

福山市上下水道局

福山近代水道の始まりの地 ～旧佐波浄水場～

旧佐波浄水場 配水池正門  
※国の登録有形文化財(建造物)



記念額(配水池入口)

あんの しんいち きこう ふしやちゆうや  
阿武 信一 初代福山市長の揮毫による「不舍晝夜」

「<sup>ふしやちゆうや</sup>不舍晝夜」とは …

昼も夜も断水がないことを意味するとともに、上水道建設の苦勞、喜び、福山の永遠の発展、市民が幸福に暮らすことへの思いが込められている。

近代水道の創設に当たり、「水道市長」とも呼ばれた<sup>あんの</sup>阿武市長が、将来にわたる強い意志を示したもので、福山近代水道の原点となるもの。

※「孟子」の一節「源泉混混不舍晝夜」から引用

(意味)「水はその源からこんこんと湧き出て、昼も夜も休む時がない」

佐波浄水場の歴史

1921年(大正10年)	3月	水道布設認可(内務大臣)
1923年(大正12年)	1月	佐波浄水場工事開始
1925年(大正14年)	9月	佐波浄水場工事完成
1925年(大正14年)	11月	給水開始(通水式)
1977年(昭和52年)	10月	佐波浄水場休止
1989年(平成元年)	4月	佐波浄水場廃止
2013年(平成25年)	3月	国の登録有形文化財(建造物)に登録

は じ め に  
～ 一部改定に当たって ～

私たちのまち福山は、広島県東部で岡山県との県境に位置する人口約47万人、面積約518平方キロメートルを有する中核都市として、多くの上場企業やオンリーワン・ナンバーワン企業を抱えるものづくりに強いまちとして発展しています。

水道事業は、1916年（大正5年）の市制施行後、1922年（大正11年）から工事に着手し、2025年（令和7年）には水道通水から100周年を迎えます。

これまで、上下水道局では、2017年（平成29年）2月に策定した「福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）」（以下「本ビジョン」という。）と5年間の「前期実施計画」に基づき、中長期的な視点に立った計画的・効率的な施設整備や持続可能な経営基盤を確立する中で、より一層の経営健全化と市民サービスの維持・向上に取り組んできました。

この間には、「平成30年7月豪雨」をはじめとした自然災害の頻発化・激甚化や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大など新たなリスクが増大しており、事業の継続性と重要性を再認識したところです。

また、事業を取り巻く経営環境は、水需要の低迷などにより収益が減少傾向にある一方で、管路や施設の更新・耐震化に対する投資が増大するなど、引き続き、厳しい状況が続くものと見込んでいます。

そうした中であっても、安心・安全な水を安定的に供給するとともに、快適で衛生的な生活環境を確保するため、計画期間の折り返しを迎えた本ビジョンを見直すこととしました。

新たなビジョンでは、自然災害への備えをはじめ、急速に変化する社会環境にも対応できるよう、「防災・減災、強靱化対策の加速化」「危機管理体制の強化」「デジタル化の推進」「広域連携の推進」「抜本的な浸水対策」を取組の基底に据え、第3次福山市上下水道事業経営審議会からの答申を踏まえるとともに、「福山みらい創造ビジョン」など最新の計画との整合を図ったものとしています。

水道や工業用水道、下水道は、市民生活や社会経済活動を支える重要なライフラインであることから、これからも、将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな※上下水道事業をめざしていきます。

2022年（令和4年）3月

☆ 本文中の上下水道事業とは、福山市上下水道局で所管する水道事業・工業用水道事業・下水道事業の3事業の総称として使用しています。

※ しなやか

災害等の危機事象に対して、被災を最小限にとどめる強い上下水道施設とすること。また、施設が被災した場合であっても、迅速に復旧できる体制などを備えていること

— 目次 —

はじめに

<b>第1章</b>	<b>策定の趣旨</b>	<b>1</b>
1-1	策定の経緯	1
1-2	位置づけ	2
1-3	計画期間	2
1-4	ビジョンの体系図	3
<b>第2章</b>	<b>上下水道事業の役割とこれまでのあゆみ</b>	<b>4</b>
2-1	水道事業の役割	4
2-2	工業用水道事業の役割	5
2-3	下水道事業の役割	5
2-4	水道事業のあゆみ	6
2-5	工業用水道事業のあゆみ	8
2-6	下水道事業のあゆみ	10
2-7	水道・工業用水道・下水道の年表（略年表）	12
<b>第3章</b>	<b>上下水道事業の現状と取り組むべき課題</b>	<b>14</b>
3-1	福山市の現状	14
3-2	人口減少社会の到来と水需要構造の変化	16
3-3	安心・安全な水の供給，施設の更新や災害対応	19
3-4	環境への配慮	26
3-5	市民満足度の向上に向けて	28
3-6	事業経営の健全化	30
<b>第4章</b>	<b>上下水道事業のめざす姿，ビジョンの基本方針，施策体系</b>	<b>42</b>
<b>第5章</b>	<b>ビジョンの基本方針に基づく具体的な取組</b>	<b>44</b>
5-1	主な取組項目	44
5-2	目標の設定（10年後の主要指標）	52
5-3	取組項目一覧	54
5-4	上下水道事業の取組と持続可能な開発目標（SDGs）	56
<b>第6章</b>	<b>投資・財政計画</b>	<b>58</b>
6-1	投資・財政計画の策定の趣旨・位置づけ	58
6-2	水道事業の将来の事業環境の見込み	60
6-3	工業用水道事業の将来の事業環境の見込み	64
6-4	下水道事業の将来の事業環境の見込み	65
6-5	効率化・経営健全化のための取組方針	68
6-6	投資・財源の試算の考え方	69
6-7	投資・財政計画	76
<b>第7章</b>	<b>進捗管理と点検・見直し</b>	<b>88</b>
<b>参考資料</b>	<b>福山市上下水道事業経営審議会</b>	<b>89</b>

## 1-1 策定の経緯

上下水道局では、これまで市政の基本方針のもと、「福山市水道事業中長期ビジョン」や「福山市公共下水道事業経営計画」を策定し、公共下水道事業への地方公営企業法の全部適用に併せて実施した水道局と建設局下水道部との組織統合（2012年（平成24年）4月）をはじめ、水道料金や下水道使用料の見直し（2015年（平成27年）3月）、既存の資産を総合的に管理することができるアセットマネジメント（資産管理）手法の導入（2015年（平成27年）11月）など、持続可能な経営基盤の確立や市民サービスの維持・向上に取り組んできました。

しかしながら、上下水道事業を取り巻く経営環境は、不安定な景気動向や節水機器の普及に加え、今後の人口減少などの要因から、水需要の低迷などにより収益が減少する一方で、老朽化した施設の更新・耐震化に対する投資が増大するなど、厳しい状況が続くものと見込んでいます。

また、福山市域で2018年（平成30年）7月5日から7月7日にかけて、24時間雨量238mm、48時間雨量364.5mmといずれも観測史上1位の降雨を記録し、県内最大の約2,000haに及ぶ浸水被害、約1,300棟の床上浸水が発生した「平成30年7月豪雨」や、人々の行動・意識・価値観にまで影響を与えた新型コロナウイルス感染症の感染拡大など、事業経営に影響を与える災害等が発生し、社会環境も大きく変化しています。

そうした中であっても、市民生活や社会経済活動を支える重要なライフラインである水道や工業用水道、下水道は、質の高い上下水道サービスを提供し続け、将来にわたって持続可能な事業経営を行い、市民に信頼される安心・安全でしなやかな上下水道事業を確立しなければなりません。

福山市では、一日も早くコロナ禍を乗り越え、市民生活の「安心」を取り戻し、誰もが未来に「希望」が持てる都市づくりに向けて、「福山市総合計画」と「福山市総合戦略」を一本化した「福山みらい創造ビジョン」を策定（2021年（令和3年）3月）し、コロナ時代の新しい社会を見据えた都市づくりを進めています。

上下水道局においても、質の高い上下水道サービスを提供し続け、経営資源である「ヒト・モノ・カネ・情報」（4つの視点）を最大限活用するため、上下水道事業がめざす将来像や目標を示す「ビジョン」と「経営戦略（投資・財政計画）」を合わせた、今後10年間の中長期的な経営の基本計画である本ビジョンを策定（2017年（平成29年）2月）しました。

この度、本ビジョンが計画期間の折り返しを迎えるこの時機を捉え、これまでの取組を検証し、計画の達成度を評価する中で、計画と実績にかい離があるものについては、その原因を分析した上で、今後5年間の「後期実施計画」を策定するとともに、「福山みらい創造ビジョン」との整合を図り、自然災害への備えや危機管理体制の強化、デジタル化の推進など、急速に変化する社会環境にも対応できるよう、本ビジョンを見直しました。

## 1-2 位置づけ

本ビジョンは、本市の上下水道事業共通の「基本理念」（上下水道局の使命）や「理想の姿」（上下水道局のビジョン）を明らかにし、その実現に向けた「基本方針：4本の柱」に基づき、重点的かつ計画的・効率的に取り組む「16の施策：38の取組項目」を取りまとめています。

また、「福山みらい創造ビジョン」や国が今後の上下水道事業に取り組むべき事項や方策を示した「新水道ビジョン」<sup>※1</sup>、「新下水道ビジョン」<sup>※2</sup>との整合を図るとともに、「公営企業の経営に当たっての留意事項について」<sup>※3</sup>や「経営戦略の策定・改定の更なる推進について」<sup>※4</sup>において、策定・改定が求められている「経営戦略」に位置づけるものです。

本ビジョンの策定や改定に当たっては、福山市上下水道事業経営審議会やパブリックコメント、市民意識調査の実施などにより、幅広い専門的な知識や意見も反映したものとしています。

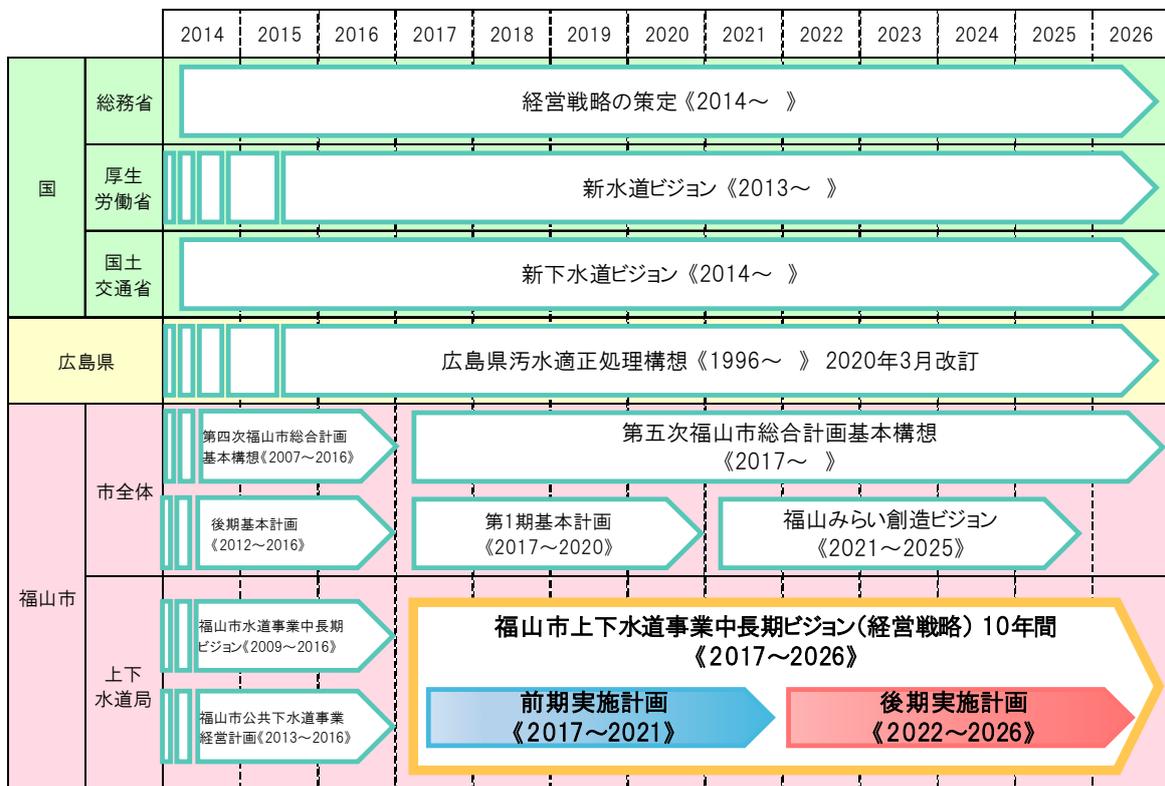
## 1-3 計画期間

◇ 2017年度（平成29年度）から2026年度（令和8年度）までの10年間

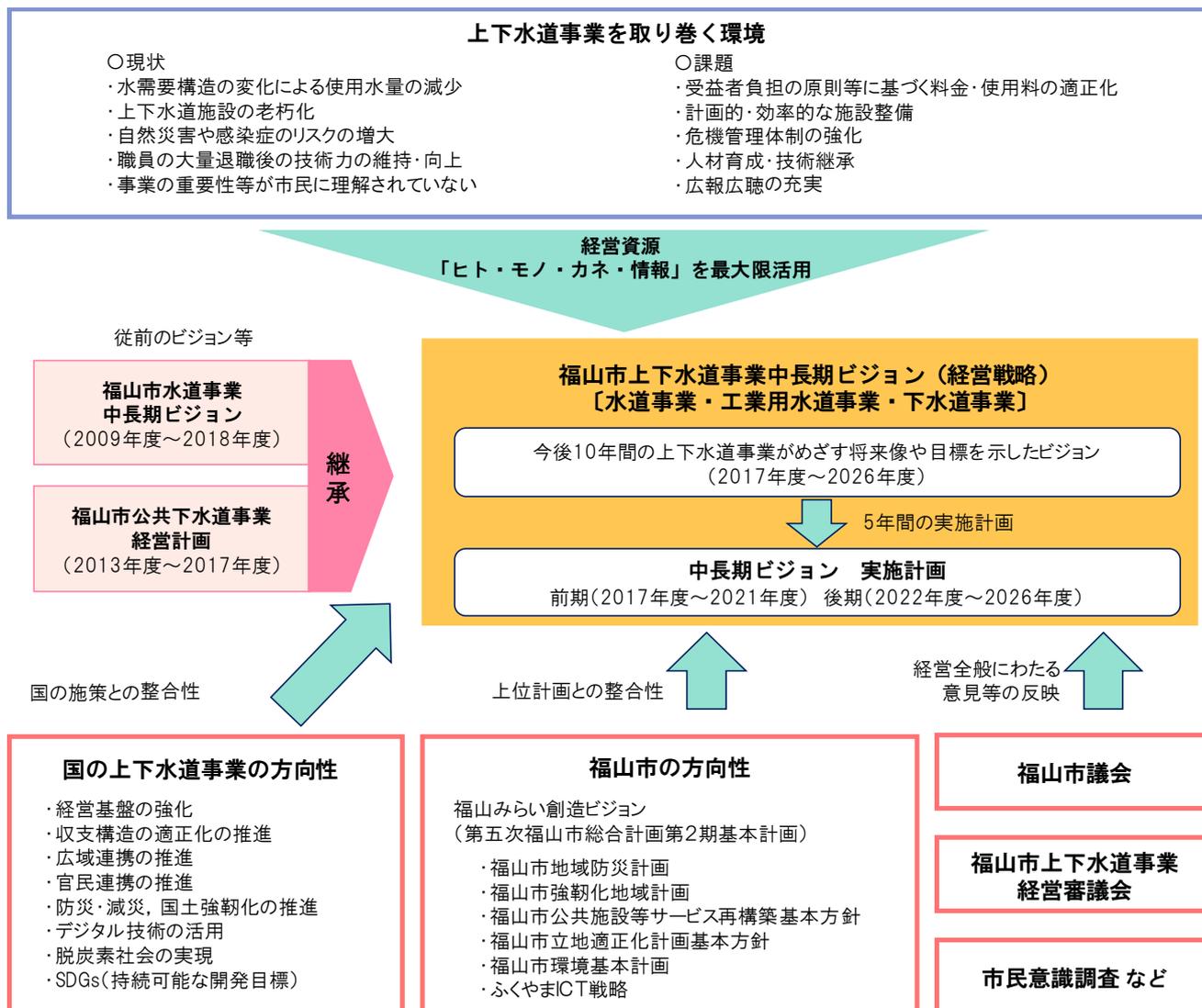
◇ 本ビジョンに掲げた「基本方針：4本の柱」や「16の施策：38の取組項目」の実効性をあげるため、次のとおり「福山市上下水道事業中長期ビジョン（経営戦略）実施計画」を策定します。

- ・前期5年間 [2017年度（平成29年度）～2021年度（令和3年度）]
- ・後期5年間 [2022年度（令和4年度）～2026年度（令和8年度）]

に分けて進捗管理を行い、達成度の検証を行う中で、適宜事業内容の見直しを行います。



## 1-4 ビジョンの体系図



**国の上下水道事業の方向性**

- ・経営基盤の強化
- ・収支構造の適正化の推進
- ・広域連携の推進
- ・官民連携の推進
- ・防災・減災、国土強靱化の推進
- ・デジタル技術の活用
- ・脱炭素社会の実現
- ・SDGs(持続可能な開発目標)

**福山市の方向性**

福山みらい創造ビジョン  
(第五次福山市総合計画第2期基本計画)

- ・福山市地域防災計画
- ・福山市強靱化地域計画
- ・福山市公共施設等サービス再構築基本方針
- ・福山市立地適正化計画基本方針
- ・福山市環境基本計画
- ・ふくやまICT戦略

**福山市議会**

**福山市上下水道事業経営審議会**

**市民意識調査 など**

- ※1 新水道ビジョン〔厚生労働省:2013年(平成25年)3月策定〕  
水道を取り巻く環境の大きな変化に対応するため、これまでの「水道ビジョン」を見直し、50年後、100年後の将来を見据え、水道の理想像を明示するとともに、取り組みのめざすべき方向性やその実現方策、関係者の役割分担を提示したもの
- ※2 新下水道ビジョン〔国土交通省:2014年(平成26年)7月策定〕  
下水道事業の現状と課題を客観的かつ的確に捉え、さらに社会経済情勢の変化を見通した上で、下水道の「使命」を改めて見直し、「使命」を達成するための長期的な「ビジョン(未来像)」を描き、「ビジョン(未来像)」を達成するための中期的な目標と施策を明確化したもの
- ※3 公営企業の経営に当たっての留意事項について〔総務省:2014年(平成26年)8月通知〕  
総務省が各公営企業に対し計画的な経営を推進していくに当たり要請したもので、現下の社会経済情勢を踏まえながら、中長期を見据えた「経営戦略」(投資等の支出と財源の均衡を図るとともに効率化や経営健全化の取組について記載した経営の基本計画)を策定することを推進している
- ※4 「経営戦略」の策定・改定の更なる推進について〔総務省:2019年(平成31年)3月通知〕  
それまでの取組について分析評価等の検証を行い、その結果を踏まえ取組を再検討し、将来の収支見通しに係る試算精度を高めるなど、留意事項・手順を解説した「経営戦略策定・改定ガイドライン」や「経営戦略策定・改定マニュアル」による質の高い見直しが行われている